

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

桜島ぐつと引き寄せ里の秋

泊 康

登頂や杖を頼りに初紅葉

原口 サエ子

霊峰の抱く盆地や豊の秋

宮路 生大子

大陽俳句会

園児らの弾める会話天高し

岩重 みどり

乗り降りのなきバス停や猫じゃらし

福村 よう子

爽涼を独り占めして野に立ちぬ

逆瀬川 節子

短歌

末吉短歌会

庭に干しし布団と共に介護士さん
日向の匂をとり込みくるる

草野 ミツ子

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

灌漑は決壊されて声も出ず

老夫汗だくにスコップ撥ぬる

大森 巳喜生

この国を切り売りしたような苦味あり
技能研修生とまたねと別れ

泊 康

大陽短歌会

「水分を摂りなさいよ」をくり返す
ヘルパーさんの声あたたかし

川辺 玉枝

散歩路に遭う犬どれも飼い主に
似ておりチワワ・シベリアンハスキー

広川 ミドリ

薬効の有りやなしやの飲み薬
飲んだ飲まぬで今日も悩みぬ

川辺 敦子

財部短歌会

夏惜しみつくつくぼうしの泣く夕に
涼しき風の秋運びけり

脇丸 洋子

彼岸花はかなく赤く誕生日
積年の思い終活進まず

永岡 冴子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

運動会 走いもせんち

爺は疲れつ

古川 一幹

走つちよい 幼児をはらはら

自分がズテン

桐野 奈世

バーゲンち 嫁あ真つ先

突っ走つ

鈴木 一泉

老夫婦 走いもならじ

地面転倒

浜田 一好

大陽薩摩狂句会

友達しや往たつ 後あ自分身ち

心細すなつ

津留 群志

語り上手 腹ん中ずや

見えつこじ

福元 多喜子

階段端で 足す踏ん外じつ

痛目めおつ

西山 美代子

凄ぜ揉めつ 韓流好つも

切ねこつ

境 すやすや